

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第2節 栃木 SC 戦

7/23(土) 18:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2ヶ月ぶりの勝利は、通算600ゴールとともに。 岐阜3-京都【第1節】

FC岐阜は長良川で京都と対戦し3対2で逆転勝ち。0対2からの逆転勝ちは見事の一言。ラジオで聞いたが『木村監督解任』の横断幕をかけたらしいが長い目で見てほしい。本来は倉田監督の2年契約の中を途中からやっているのだから。今こそサポーターが一丸となって戦う時。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

前節の鳥取戦で形はどうあれ久々の勝ち点ゲット。なんとか流れを好転させたいと迎えた京都戦。しかし2点先行されて苦しい展開。前半の岐阜はサイドをえぐるような攻撃が少なくそのため京都が思い切ってラインを上げることができ、それに巻き込まれてまさに窒息状態。ところが1点目はたまたま左サイドに流れたボールが起点になった。本当にたまたまだ。まったく何が奏功するかわからない。とにかく1点返して前半を終えることが出来たのはウチには幸運だった。

後半さすがに修正が入ったかコートを広く使うようになりウチのペースに。前半と後半の鮮やかな(?)シフトチェンジに京都の守備陣がついてこれずに同点、そして最終盤で劇的な逆転ゴール。本当によく盛り返したと思う。

あの2点ビハインドの直後、選手たちが何を思ったかは分からない。でも「絶対にあきらめない姿勢」があれば勝利の女神はちょっとは味方してくれる。そんなことを感じた試合でした。(ST57)

その瞬間、溜まりに溜まりまくっていた感情はいっせいに迸(ほとばし)り、スタジアム内には興奮のどよめきと歓声が渦巻いた。ようやく手に入れた今季2勝目は、ここまでドラマチックに演出しなくても、というくらい劇的な勝利。初勝利から2ヶ月余。もしかしたら、今季はもう勝てないんじゃないか?正直、そんな不安も抱いたりした。残念ながら、不安のすべてが一掃されたわけではない。2失点とも、毎度おなじみの連携ミスとかアマチュア以下レベルのミスではないが、開幕からここまで1試合連続の失点。そのうち半分の7試合で前半中に失点。先制されると、2点以上を取るのが困難という状況は決して解消できていない。なにせ、この京都戦が初めての逆転勝利なのだ。しかも、京都は主力がケガと累積による欠場していたうえ、10番を背負うキャプテンが不在、調子も下降気味という悪条件。今日勝たなければ、いつ勝つんだ?ぐらいに思っていた。もっとも、同じような条件を抱えていた札幌に、ありえないような敗戦を喫したことも記憶に新しい。

札幌戦とこの日の違いといえば、アマチュア以下のミスがなかったこと。前半のうちに一点返したこと。そして、京都がなぜだか前半30分でガス欠になったこと。京都の前線は、現役高校生、新卒の若手ばかり。体力がありそうに見えたが、その若さゆえの不安定さが出てしまったのだろうか?逆に、岐阜の選手たちは最後までよく走ったといえる。特に、染矢と正吾はがんばってくれた。1点目と2点目に絡んでくれたのが染矢だったし、決勝ゴールのお膳立ては正吾だったし。それでも、自分的にMVPを挙げるとしたら新井に一票!追撃ののろしを上げた一点目は、新井のドリブルからだった。決してキレイのいい、鮮やかなドリブルとは言えず、いつカットされるかと、ハラハラしながら見ていたが、まるでウナギのようにのりくりりとDFを交わして、左サイドの染矢へパス。新井のドリブル同様、染矢のクロスは相手に当たる。優大のシュートはジャストミートじゃないような。そんな泥臭い流れからの得点だったけれど、一点差にしたことで、選手に力が漲ったのではないだろうか?横浜戦以来の染矢クロス 洗一ヘッドのゴールは鮮やかだった。本来なら、その流れのまま早いうちに逆転し、余力を残して勝利を挙げるのが理想だったが欲張りすぎかな?決勝ゴールの永芳は、よく逆サイへ詰めてくれた。でも、その前のチャンスでシュートを撃たなかった場面があって、そこは少し残念だ。岐阜の中でもテクニックと正確性を併せ持つ左足で、もっと得点シーンに絡んでほしい。というか、もっとシュート撃って点とってください。よろしくお願いします。(ぐん、)

NH岐阜のキャスターさんは後日のニュースコーナーで「スカッとした試合」と表現していたけど、ぼくの考えは違った(笑)。前半の2失点がなければ「スカッと」したと思うけど(苦笑)。いつも通りの立ち上がりの失点。旅籠町に着いたとたんに目の前でトラブルが起きて巻き込まれて(クチを出して?)、そのトラブルには悪徳商人や役人が絡んでいて、立ち回りが済んだあたりで懐から出した薬入れに描かれた模様で一発解決させてしまう...という、あの有名な時代劇を視ているような、いつも通り(笑)。でもこの日の流れはいつもと違った。対戦相手が緩んだことと考えられないハイペースで脚が止まってくれたこと、そして岐阜の選手達が下を向かなかったことだ。洗一の同点ゴールは「なでしこジャパンのメキシコ戦の澤選手のゴールから学びました」みたいな感じだった。ホントは、この同点からの15分くらいの押せ押せタイムで逆転まで持って行かなくちゃいけないんだけど(苦笑)。アッドタイムの永芳のゴール(データが正しければ、FC岐阜の歴史で通算600ゴールのはず)で2ヶ月ぶりの勝ち点3となった。たしかに、いまの岐阜は相手が悪い状態でなければ勝ち点は取れない。いままでもそういう(相手の内容が悪い)試合はあった。岐阜がもっと悪かっただけだ。でも、この日はそうではなかった。この日の勝利が、溜まって澱んでいたFC岐阜の反攻開始のトリガーになるのか、それとも単に「京都がひどく悪かっただけ」なのか、リーグ上位陣との対戦が続くこれからの戦いで見えてくるだろう。(吉田铸造)

today's guest

栃木 SC

2010 J2第10位

J2通算対戦成績:2勝1分2敗

2010成績

第1節 10/05/30 栃木2-0岐阜

第3節 10/11/28 岐阜4-2栃木

2009成績

第0節 09/03/08 栃木0-1岐阜

第3節 09/08/05 岐阜1-1栃木

第4節 09/09/23 栃木2-1岐阜

2011J2

順位表 第2節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から視て)

1 FC東京	32p	+13	23	10	A
2 千葉	31p	+10	27	17	A
3 徳島	31p	+6	25	15	H
4 栃木	30p	+11	25	14	
5 熊本	26p	+4	15	11	A
6 東京V	25p	+13	31	18	H A
7 札幌	25p	+3	15	12	H
8 北九州	24p	-3	15	18	
9 鳥栖	23p	+8	19	11	A
10 湘南	22p	-3	16	19	H
11 愛媛	21p	-3	20	23	A
12 鳥取	19p	+3	19	16	A
13 水戸	19p	-4	17	21	H
14 岡山	19p	-8	19	27	
15 草津	19p	-9	20	29	
16 大分	18p	-5	15	20	H
17 京都	16p	-3	18	21	H
18 横浜FC	16p	-4	15	19	A
19 富山	14p	-12	12	24	A
20 岐阜	058	-21	11	32	---

次回 HomeGame

第3節

FC東京戦

8/7(日) 18:00

@岐阜メモリアル

センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)

7/23号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:ささたく&吉田铸造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願い致します。

前節の勝利は勢いにならず。 東京V 3-0岐阜【第20節】

FC岐阜はアウェイで東京Vと対戦し、0対3で敗戦。前節の逆転勝ちの勢いを生かせず。気持ちを切り替えて行くしかない。今こそサポーターが一丸となって戦う時。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

前節の京都戦では劇的な大逆転。このまま勢いに乗って行きたいところ...なんだけれど、今度の対戦相手は東京V、しかもアウェイ味スタでの試合。残念ながら東京Vには1度も勝ってないし、正直、いつも試合内容も良くないなあと感じてしまう。認めたくはないが、これが「相性」というものなのだろうか...。しかし、ここで勝利を掴めれば、チームの勢いが本物になることも事実な、大事な試合。

しかし、予感悪い方に的中する。前半13分、左サイドを敵MF飯尾に抜け出され、すぐに中央に折り返したボールをそのまま押し込まれて失点。なんというか...（ため息）...まるで録画のように、今季何度も見せられてしまっている失点シーン。「黄金の失点パターン」「FC岐阜から得点する際のお手本」と言っても良い。しかも、ゴールを押し込んだFWにはDFが複数人併走していたにも関わらず、ボールを厳しく競りあう様子もなく、失点を許したように（少なくとも僕には）見えた。序盤からいきなり、気が重くなる失点。その後、敵の中心選手である飯尾が負傷交替するが、それでも試合の流れは東京Vペース。何度も決定機を作られるが、その度に敵FWマニョンが外してくれる&村尾の好セーブ連発で追加点を許さず、前半終了。

ツキはこちらにあるのだから、ハーフタイムに修正できれば流れは...と思ったが、やはり東京Vのペースで始まる後半。そして5分。マニョンと秋田、そして村尾がPA内で交錯して倒れ（スリップかな?）、全員（マニョンすらも）がセルフジャッジしてプレーを止めてしまい、慌てた村尾が足でクリアに行くが、マニョンにボールを奪われて2失点目。正直、ガックリきた失点。それまで何度も1対1でマニョンを止めていた村尾だけに、本当に悔やまれるシーンだったし、反応できてなかったDF陣にも猛省を促したい場面だと思う。8分にはバイタルエリアでのFWを決められて3失点目。まあ、あれは蹴った菊岡を誉めるしかないキックと割り切るしかないが。そのまま、FC岐阜は良いところをほとんど見せることも出来ず、流れは東京Vに掴まれたまま、試合終了。何とも後味の悪い試合だった。

（前節は勝利したが）負け続けているせいか、選手たちが自分たちに自信を失っているのではないかな?と思えるような、消極的なプレーが気になる。確かに、相手が技術的に上手いのは認めるしかない。しかし、判断力の速さや、労を惜みず最後まで走りきることや、ボール際の厳しいチェックで相手を上回ることが出来れば、勝つことだって出来るはずだ。僕らはそれを見たいのだし、見せてくれると信じて声援を送っているのだ。そのことを改めて胸に刻み込んで、選手たちには最後まで走り抜き、戦い抜いて欲しい。（ささたく）

これで、リーグの東京V戦は終了。まだ、一度も対戦していないクラブが3つもあるのにヘンな感じだ。そして、今季も勝利することができなかった。試合の翌日に録画を観戦。あゝ、戸塚さんの解説が身に沁みるなあ（苦笑）。同じサッカーという名のゲームだというのに、ずいぶんと違いがあるもんだね。もうね、なんというか毎度毎度、判で押したような失点の仕方とその後のコメントも、もう飽きたよ。結局、このままじゃ、調子下降気味なクラブ、もしくは、より多くのミスをしてくれたクラブにしか勝てないってことだよな。順位が表すとおり、他のクラブは全部実力上位。そこが、普段の試合をしたら、ウチに勝ち目はなく、挙げ句に自滅.....というパターン。ツライなあ。技術を始めとした能力に、差があることはわかってる。ただ、ボールの出し手と受け手の呼吸が、ここまで合わないのはなぜなんだ?守備は練習してないらしいから一万歩譲って組織的な?守備が出来ないのはガマンするが、攻撃でもズレまくるってどういうこと?結局、試合のための練習ではなく、練習のための練習でしかないってことかな?それに、ウチの選手はボールがキラいなんだろうか?守備陣は、見事に危険な時だけ息を合わせてボール・ウォッチャーになるし、FWはワントラップする余裕があるのに、ダイレクトであさっての方向蹴っちゃってるし。オマケに、ココからビルドアップ、って場面で鮮やかにトラップミスして、ボールはそのままサイドラインへサヨウナラ。一試合でそんなんが3回もあるとなあ。

そんな中で、気の毒なのは村尾。ホントによく守ってたよ。マニョンとの一対一を三度止め、あと一回はコースを消して枠外へ。集中を切らさず、よく守ったと思う。一点めと三点めはノーチャンスでしかたがない。ただ、惜しむらくは彼がGだったこと。二点めについては、弁解の余地がない。アマチュアでもあり得んだろ、年に一度あるかないかだろというレベルのミスに、一ヶ月もしないうちに再びお目にかかるとはね（苦笑）。

選手が全力で頑張ってるのはわかる。たった一つの持ち味「ひたむきさ」はなくしちゃいけない。それでも、モニターに映し出されるのは、余裕綽々でボールを回すオトナから「どうした?もう終わり?もっと、かかってきなよ」と言われて、泣きながらただ闇雲にボールを追っかける小さな子ども達の姿。あまり、うまい喩えとは言えないが、現地で、それを目の当たりにしたボクは、選手が終了後の挨拶に来て何にも出来ず、ただ立ち尽くすだけだった。そんな中で起こった「FC岐阜コール」。口火を切ったリーダーも、即座に呼応した仲間も素晴らしかった。ただ、自分だけがついていけなかった。実に情けない話だ。それでも、また行くけどな>味スタ。どっちの東京もなかなかできない味スタ連戦。もう、ウチのホーム認定でいいんじゃないの?そんな軽口も叩きたかったが、今の気分じゃ、ちと難しいか（苦笑）。（ぐん、）

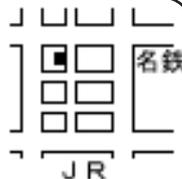
ALADDIN

何も無い店だけど...
心の花が咲く...
何も無い店だけど...
心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チチミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休：日曜日（今日は営業しています）



手も足も出ず、とはこういう試合か。 FC東京 4-0 岐阜【第2節】

まずは、恭平に「復帰おめでとう、そして野球的スコアにしないでくれてありがとう。」と言いたい。帰ってから改めて録画を見てみると、やはり現地で感じたこととは印象が違う。終了直後は「ハーフコート・マッチってのを具体化すると、こうなんだろうな。」と思ったが、録画ではそこまで圧倒的ではなかった。まあ、前後半通じて10分くらいは攻撃できたかな(笑)。公式によるとシュートは7本だそうだが、ペナルティ・エリア内での惜しいシュートはポストに当てた押谷くらい。前半の優大も、後半の正吾も蹴るまではよかったけれど、枠は捉えてほしかったな。

しかし、冒頭にも書いたけれど恭平は全部で5点くらい防いでくれた。確かに苦戦は想定の内。現も元も含めた日本代表を複数有するFC東京が相手。前節戦ったもうひとつの東京よりも厳しいんだろうとは思っていたが、想像以上にサッカーをさせてもらえなかった。ピッチを広く有効に使う長短のパスもあれば、狭い局面でもボールを失わないキープ力もあり、チャンスと見るや自ら仕掛けていく積極性もある。なによりお互いを理解しそれぞれを生かそうとする連動性。サッカーにミスは付き物だけど、これを繰り返してたら点に入るよね、と。と言いつつ前節のスコアレス・ドローを含め、なかなか得点できないのがここまでFC東京が苦戦してきた原因だし、繰り返しになるけど恭平のおかげで2分まではそういう展開に持ち込めそうではあったんだが……。それでも、アノ1点目はどうしようもない。得点した徳永も自陣から走ってきたせいか、シュート直前に足がもつれたようになってバランスを崩したんだけど、運悪くそれがフェイントになってしまって恭平のタイミングが外されてしまった。でなければ、角度もなかったしもしかしたら防げたかもしれない。

しかし、失点は時間の問題だったんだろう。せっかくボールを奪っても、次の瞬間には奪い返されバイタル・エリア(ペナルティ・エリアの前あたり)でボールをつながれてのヒヤヒヤな場面の繰り返し。オマケに録画で見るとよくわかるのが、ボール保持者に対しての詰め甘さ。そりゃあ、寄せたら交わされる恐れもあるし、そういうテクニックを持っている相手だけど、わずかな隙間があればシュートを撃てる相手にあんだけ余裕を与えたら「ごつつあんです！」とばかりに反転してゴール決めちゃうよね>2点目。あれは確か、鳥栖戦後のインタビュー(J'sGoal!)で光が「ウチは前からプレスしてナンボ」というようなことを言っていたけど、それはほとんど見る事がなく、たまに敵陣で前の二人がチェイスするけどその他の中盤や最終ラインと連動するんでなければ意味がない。その辺はどういう約束になっているんだろう?最終ラインからのビルドアップ。丁寧なつなぎを心がけ、相手ボールにはプレスをかけてのショートカウンター。パスが2本以上つながらないような状況ではあるけれど、そういう戦略じゃないのかな?

今年は一度も練習見学に行ったことがないんだけど、普段はどんな練習してるんだろう?監督には当然戦略も戦術もあるんだろうし、その指示を遂行できない選手の責任、と言われればそれまで。そう思わないでもないけれど、一昨年、去年とそんなに変わらないメンバーでここまで極端に成績下がるってのはどうなんだろう?そう思うのは自分だけかな?確かに昨季から守備の要・吉本が抜けた。でも、その代わりが光だったよね?もちろん、持ち味は違うけど、その分吉本にはなかったJ1での経験があるわけだし、そこまでマイナスが大きいとは思わないし思いたくない。もちろん、一昨年も去年も今年の成績とは段違いによかったというわけではないのだけれど……。味スタの連戦、特に前節を見ると、もしかして実戦で守備の練習してるのかな?とも勘ぐりたくなってしまふよ(苦笑)。動員は自慢できるほど多くないけれど、それでもかなりの人がお金と時間を費やして応援に駆けつけている。そろそ

ろシーズンの半ばにさしかかろうというのに、未だ組織的に戦えず残しているのはリーグ最多の失点とファウル、そして最少の得点。久しぶりの勝利に涙する姿には感動もするけれど、プロである以上それだけが売りでいいわけがない。少なくとも味スタには、夢や感動はかけらもなかった。それでも、悔しさや情けなさは感じてくれているだろう。それすらもないとは思いたくない。味スタでのそれらをバネに、ホーム・長良川で意地を見せてほしい。いろんなことに対しての……。 (ぐん、)

メンバーを変えてきた試合。Gが恭平が戻ってきたこと(柏からレンタルされている川浪はどうなるのだろう...)もあるだろうけど、村尾が遠征メンバーからはずされたことは、ぼくは「よかった」と思う。Gに一番求められる部分、『セーフティ』を忘れたミスを一月の間に繰り返したのだから。FC岐阜のトップチームは“育成組織”ではない。戦う“プロフェッショナル”の集団でなければならない。そして、左SBに菅を入れてきた。たしか、入団1年目に何試合かやってると思う。

でも、FC東京は、そんなメンバーチェンジでどうにかなる相手ではなかったようだ。友人で現地で観ていた東京サポから感想がtwitterなどに流れて来たのだけど、「もしかして、東京は大学生相手の練習試合をやっているつもりなのか?まあ、今日びは大学生の方がもっと訓練されているけど」「こんな遊んだ試合運びをする東京は、今日は負けた方がいい」などなど。岐阜サポとしたらどういう視座で読めばいいのかわからない内容ばかり。この試合、練習試合でもなければ公開スパーリングでもない、同じカテゴリーに所属のチーム同士が戦う「リーグ戦」だよな?

現在のFC岐阜のサッカーを一言で著すなら「ダントツの最下位に相応しいサッカー」ということになる。選手は悔しいだろう、とても悔しいだろう(もしかしたら、監督やコーチはフロントは悔しくないのかもしれないけど)。でも、その悔しさを負けた後に見せるのではなく、次の試合の“試合中”で見せてほしい。(吉田鑄造)

【ユース】 県高校リーグ戦、現在3連勝!

我らがFC岐阜ユースU-18は岐阜県の高校サッカーの県リーグである「Gリーグ」3部に参戦しています。7月9日に多治見工業高校との試合があったので観戦に行ってきました。

この日は多治見工業高校のグラウンドで試合がありましたが、日本一暑い町多治見を象徴(苦笑)するような炎天下での試合となり、途中で審判による給水タイムがあったのは適切な判断だったと思います。

試合はFC岐阜ユースが終始圧倒し前半は3対0、後半は4対0、都合7対0の完封勝利となりました。相手の多治見工業も主導権を握られっぱなしだったにも関わらず、切れずに懸命にプレーしていたのは好印象でした。

何はともあれ3連勝(嬉)。前半リーグの上位2チームが勝ち抜けて後期リーグに進むので、これで後期進出に王手をかけましたね。前半リーグの残りは2試合。決して驕ることなく一戦ずつ着実に勝利を重ねて行ってもらいたいです。FORZA! FC岐阜ユースU-18!!(シュナ)

 Living in Woods

本庄工業株式会社
<http://www.honj-woodream.com/>